

- 1 日 時 平成30年2月14日（水） 午前10時～11時55分
- 2 場 所 中央区役所8階大会議室
- 3 テーマ 区政全般について
- 4 主な質疑

1 広報、区政

○ 「中央区内散歩」は昭和60年から平成22年までの間で9冊発行されていましたが、以降、発行されていません。江戸川区では出版社と協力して、「大人の江戸川区案内」という同種の本を出しています。「大人の江戸川区案内」の編集者に聞いたところ、自宅に引きこもりがちな高齢者が、この本を片手に外に出てくれればと思い発行したとのことですが、内容は高齢者向けを意識させない、現代風なカラフルな仕上がりになっています。江戸川区も町並みは日々変わっており、2年に1回程度のペースで改訂版を出しています。中央区は江戸川区以上に変化が激しいので、今後も「中央区内散歩」を定期的に改訂・発行していただきたいと思います。

●企画部長 「中央区内散歩」は、区のおしらせに昭和60年から平成22年まで連載された記事をもとに発行された本です。

高齢者の引きこもり対策として散歩は重要なものだと区も考えており、現在、区の観光協会で「刊行ガイドマップ」「中央区街歩きマップ」を発行しています。また新年度には「健康ウォーキングマップ」を作成し、区内を回遊できるようにハード面の整備を進めます。これらを活用していただき、まち歩きを皆様にも楽しんでいただければと思います。

○ 区政モニター会議に参加するようになって、初めて区の広報番組『こんにちは中央区です』を知りました。毎回、楽しみに拝見しています。

同番組では区内のイベント情報が流れますが、既に終わったイベントが紹介されることが多いです。文字情報でも結構ですから、「来週のイベント一覧」情報を提供していただけないでしょうか。そうすれば、参加できる機会も増えると思います。

●企画部長 ご提案ありがとうございます。ご提案の趣旨はごもっともだと思いますので、限られた放送時間の中ではありますが、「来週のイベント一覧」情報を提供するように検討します。

○ 区政モニター会議に1年間参加して、よかったですと思います。しかし一方で、せっかくモニターに選ばれたのですから、選ばれた人たちの意見が反映できる、また意見が出るような場になればいいとも思っています。区政モニター会議のテーマは区が決めたものではなく、モニターで決められないかと思います。また、議会や区役所の幹部の方々とも直接、お話をする機会があればいいとも思っています。

○ 区政モニター会議に参加して、区政について多く学ばせていただきました。ただ、区政モニター会議のテーマ決定については、募集の際にテーマを提示したり、募集後にモニターからアンケートをとって、興味があるテーマを設定するなどの工夫が必要だと思います。

また会議の進め方も、双方向の意見交換になるようにすれば、さまざまな意見が出てくるのではないかと思います。

また区職員の説明も、この制度はこうなっていますという説明で終える方がいる一方で、背景やデータを提示しながら、制度の趣旨・仕組みを説明してくれる方もいて、説明のレベルに違いがあったと思います。

施設見学会は、なかなか行けない施設へ行けることもあり勉強になったが、区政モニターとして何をすればいいか分からず、会議とのつながりが悪いのではないかと思います。

○ この1年間、中央区民としていい経験をさせていただきました。

区政モニターは、せっかくいろいろな世代の方々が集まっている場なので、お茶飲み話のような気軽さをもって、区政モニター間で意見交換をし、それを区が聞き、まとめるという会議になればいいと思います。

会議のテーマも、今年度は高齢者にかかわるテーマが多かったですが、むしろ、これからの区を背負う若い世代向けのテーマを増やしたほうがいいと思います。

●**企画部長** 区政モニター会議は、時間や出席できる方に制約があり、その運営にはいろいろ課題があると思います。

これまで区政モニターの募集にあたっては、区政について理解を深めていただき、区の施策について建設的なご意見を伺う場とお知らせして、実施してまいりました。今回、皆様のご意見を伺うと、募集の際にテーマを提示した上で応募いただくという方法、区が提示したテーマについて意見をお伺いすることを明確にする必要があると考えています。今は限られた時間で、皆さまからご意見をいただくため、設定されたテーマについてご意見を伺う形になっています。

職員の説明レベルの違いもご指摘いただきました。この点については、今後、わかりやすくお伝えできるように各職員のレベルアップに努めたいと思います。

施設見学会については極力新しい施設を紹介させていただいています。今回も多くの方は初めて訪れる施設で好評だったと聞いています。区としては今後も、区の施設を知っていただくことを目的に見学施設を設定したいと思います。

- 中央区からの情報提供メールとしては、現在、「ちゅうおう安全・安心メール」や「あのねママメール」がありますが、これらでは不十分だと思います。「あのねママメール」は受信者では好評なので、区政全般にわたるメールマガジンも導入していただきたいです。
- 最近では新聞を定期購読する人も減ってきて、区のおしらせの毎月11日号、21日号の読まれる機会が減っていると思います。そこで、事前にメールアドレスを登録し、各月毎号、必ず受信できるようになれば、読みやすく、イベントにも参加しやすくなるかなと思います。
- 区のおしらせは現在、毎月1日号は町会・自治会を通じて全戸配布、11日号、21日号は新聞折込みとなっています。発行部数も1日号は7万6000部、11日号・21日号は6万6000部と聞いています。各号によって、記事内容の違いを設けるなど、編集の工夫はしていますか。例えば1日号は、区民全員に知ってもらいたい内容を載せるなど、号により違いがあるのか教えてください。
- 企画部長** ご指摘のとおり、区のおしらせは1日号は町会・自治会を通じて、11日号・21日号は新聞折込みで配布しています。最近、新聞の定期購読者が減っていることを受け、発行部数に差が生じています。配布方法や発行部数の差による記事内容の違いは特にありません。発行日に合わせた記事を載せています。

メールマガジンについては、即時性の高い情報提供を希望される方に直接届けられる等の効果があることは認識しています。ただ、ツイッター等のSNS、テレビ・ラジオ等、さまざまな情報提供手段がある中、メールマガジンの導入については、メールアドレス等の個人情報の適切な管理方法などを考慮し、判断する必要があると考えています。

広報紙の配信については、スマートフォン用アプリ「中央区版 マイ広報紙」や「マチイロ」があり、これらをダウンロードしていただくと、簡単な登録手続を経て、発行日当日に自動配信されますので、活用をご検討ください。
- 中央区は一見すると賑わっているように見えますが、私は定着率が悪いと感じています。同じ場所で人生を全うして、できれば子孫まで住み続けるというのが自治体の一番の基幹だと思います。中央区民には、区民としての誇りや愛郷心が薄いのではないかと思います。

昨年5月の区政世論調査では、「区に住み続けたい」「できれば住み続けたい」という意向を持つ区民が合わせて86%もいたとのこと。区長ご自身も、昨年末の区議会で、0～9歳児の人口が着実に増えていることを受け、この世代が今後も中央区に住み続けられる環境を整備したいと答弁されていました。区民の定住は自治体の基幹ですので、今後、区政の方向性を定める基本計画に、この点を明確に位置づけ、強力で推進していただきたいと思っています。

●**区長** 中央区は23区の中で、区民の年齢が一番若い区です。働き盛りの人が転入してきて、子どもも生まれているわけですが、若い人たちは例えば就職や転勤など、移動する機会も多いのかもしれませんが。家賃の高さなども要因としてあるかと感じていて、区として定住化率を上げる努力をしてまいります。

●**吉田副区長** これまでの区の人口回復対策として、現に住んでいる人を転出させないことを基本としてきました。例えば大規模再開発で新たなマンションが建つ場合も、家賃の高騰による転出を防ぐため、開発利益の一部を家賃補助に回し、区民が長く住み続けられるようにしてきました。そうすることで、区の歴史や伝統が守られると思ったからです。

区民に住み続けていただくには、やはりコミュニティづくりが不可欠だと考えています。高齢者から働き盛りの人、子どもまで、いろいろな世代のいろいろな職種の方々が、コミュニティの中でそれぞれの生きがいを感じられる、そういう施策を展開したいと考えています。

○ 区の職員はフットワークが軽く、女性職員の活用も進んでいると感じます。特に係長・課長級には、優秀な女性職員の方が多いと思います。

このように各部署・各職員はいい仕事をされていますが、部署間の連携がまだ不十分だと思います。複数の関係部署で連携して取り組めば、もっと効果が上がると感じる施策・事業が多いです。区では各部署間で連絡会議をしていると以前伺いましたが、他にどのような取り組みをしているか教えてください。

●**企画部長** 行政の仕事の進め方については、従来からセクショナリズムのお話をいただきます。この点、我々も実感することはございますが、最近では、セクショナリズムにとらわれていては仕事が進まない時代になってきたとも感じております。部署間の横の連携はますます必要になり、それを推進するのが企画部だと思っています。

企画部主催で、各部局の課長が出席する調整会議を定例的に開催しています。また、施策・事業ごとに、横のつながりを形成する場として、検討会やプロジェクトチームなどを設け、情報共有を図り、より多くの成果を出すための取り組みをしています。今後もより質の高い住民サービスの提供に努めてまいります。

2 福祉保健、高齢者施策

○ 今後、要介護者・要支援者の増加が見込まれ、介護予防を目的とした健康づくりや食生活の指導をさらに重視する必要があると思います。例えば、各地区にあるおとしより相談センターで、健康づくりや食生活に関する講座を定期的で開催し、しっかりと周知していくことが必要だと思います。

●**高齢者施策推進室長** ご意見のとおり、介護予防の健康づくりは今後ますます重

要になると区も考えています。区では、区民の方がそれぞれの生活状態に合わせて、身近な場所で継続して健康づくりに取り組める施策を進めています。例えば社会教育会館では「ゆうゆう講座」を年24回、いきいき館ではヨガ、フラダンス等で体を動かす講座などを随時開催し、さまざまな形で健康づくりに努めています。

また今年度から、区民を中心としたボランティアが運営する「通いの場」事業を開始しました。現在、既に12カ所できましたので、今後も増やしていきたいと考えています。さらに区では現在、専門の研究機関からの助言を得て、転倒予防や口腔機能・認知機能の向上に役立つ、区独自の介護予防プログラムを開発しています。

これらの取り組みを、広報紙だけではなくパンフレットや冊子なども利用して、広く周知していきたいと考えています。

○ 中央区は狭いですが、各地区にはそれぞれ特色があります。介護の施策を策定する場合にも、地区ごとの生活様式などを考慮していけば、よりきめ細かい行政サービスにつながると思います。

● **高齢者施策推進室長** 現在、中央区の高齢化率は下がっていますが、7～8年後には底を打ち、そこからは上昇すると考えています。来年度から介護保険制度が変わることに合わせ、現在、新たな介護保険事業計画を年度末までに策定する予定です。新計画では、高齢化率上昇に備え、地域の特色を考慮しつつ、地域の皆さまで支え合えるように、さまざまな方々との連携を強化していこうとうたっています。

○ 区のいきいき館は設備やサービスが充実していますが、それが本当に高齢者の役に立っているのか、定期的に検証していますか。賢い税金の使い方を心がけていただきたいと思います。

高齢者は、ボランティア活動など、社会のために何か役立つことをすることで生きがいを感じるものだと思います。

● **高齢者施策推進室長** いきいき館の設備やサービスについては、利用者の皆さまから好評で、多くの方に利用されています。ただ、ずっと同じことをしていればいいとは思っておらず、講座やイベントについては適宜見直しをしています。利用者アンケート運営協議会を設け意見を伺ったり、利用者懇談会での協議を得て見直すなど、工夫をしているところです。

また、高齢者が生きがいをもって活動するためには、地域の中で役割を持って活動していただくことが大切と認識しています。そのため、いきいき館では、利用者に講師になっていただき講座を開くとか、元気高齢者人材バンクの登録者を募り、登録者には地域で自分の特技・経験を生かした活動をしていただいています。

す。今後もボランティア人材の育成に努め、高齢者の生きがいを推進してまいります。

- 区はホームレス（路上生活者）削減のために何か対策をしていますか。しているなら、実績も教えてください。また区民が公園などでホームレスを見かけた場合、どう行動すればいいのでしょうか。どこかに連絡すれば、移動してもらえるように働きかけていただけるのでしょうか。

●**福祉保健部長** 区内の路上生活者対策については、これまでも都と区で共同して、さまざまな取り組みをしてきました。例えば、区では公園や道路などを管理者が定期巡回していますが、その際、福祉担当職員も同行し、路上生活者を見つけた場合には、福祉施設への入所、健康不良と見られる場合には病院への受診を働きかけ、自立支援への誘導を行っています。また都とも同様な巡回相談事業を共同で実施しています。その結果、最新の調査では、区内の路上生活者は36人でした。10年前には179人でしたので、143人も減っています。

路上生活者を見かけ、不安あるいは心配になった場合には、区的生活支援課相談調整係までご連絡いただければ、職員が出向き、生活相談等の対応をします。

今後も、区民の方には安心して公園等を利用できる環境づくりに、路上生活者には自立につながる取り組みをしてまいります。

- 区民が中央区で安心して暮らしていくには、医療施設が充実していることが不可欠だと思います。区内の月島・晴海・佃・勝どきは、巨大地震が発生して道路が液状化したり、橋が崩落し、外部と遮断されれば完全に孤立します。現在、これらの地区には約8万人、将来的には10万人が住む見込みですが、病院が不足しています。

区民の安心を担保するためにどのような施策を区はとるつもりでしょうか。ぜひ晴海地区に高度医療機関や救急医療機関あるいは療養型医療施設の誘致をしていただきたいと思います。

●**福祉保健部長** 現在、区には整備中を含め4つの病院がありますが、災害時に区内で重傷者を一定規模で受け入れられる病院は、実質、聖路加病院しかありません。病院不足は区としても大きな課題と認識しています。一方、都では、都内を13のブロックに分け、各ブロック内で、面積・人口などを勘案して病床数を決めています。中央区が属する中央ブロックには千代田区や文京区などが含まれ、両区には高度医療機関等の医療施設が集中している関係もあり、中央区に割り当てられる病床数が少なくなっています。区としても将来を見据え、毎年、国や都に病床数規制のあり方の見直しを要望しています。今後も粘り強く要望を続け、安心できる医療環境の確保に向け取り組んでいきます。

3 その他

○ 最近、私の住む町内にはマンションが次々に建ち、いわゆる新住民の方が増えました。新住民の方は、清掃やボランティア活動には無関心の方が多いです。今までその地域で暮らしてきた住民、特に高齢者の意見は、若い世代にもつなげていかなければいけない大事な財産だと思います。それを受け継いでいくことで、中央区に生まれ育ってよかった、誇りを持てるようになると思います。

区も、こういうことを考慮していただき、自治会・町会活動の活性化に取り組んでいただきたいと思います。その際、自治会・町会の方々と顔の見える関係で、血の通った形で連携をとっていただきたいと思います。

●**区民部長** 新住民の方が増えて、自治会・町会活動になかなかご理解いただけないことに対して、区としても、いかに対応するかを各自治会・町会と話し合いながら検討を進めているところです。区では昭和58年からコミュニティ連絡相談員を各地域に配置し、相談員が自治会・町会を訪問してご意見・ご要望を伺い、それを関係部署に上げるという体制をとっております。また区全体の考え方や施策については、年1回、行政懇談会で、京橋・月島・日本橋の3地域の町会長との間で意見交換し、要望を伺っております。

また新住民の方には、転入時に、お住まいの地区の自治会・町会活動の紹介をして、加入の案内をしています。このようにさまざまな工夫をしながら、区としても自治会・町会と一体となって、活動の活性化に取り組んでいることをご理解いただければと思います。

○ 私は月島に住んでいますが、月島3丁目で大規模再開発が行われるとのこと。南北各地区に1棟ずつ、高層マンションが建つようですが、日照権の問題などもあり、住民の中には反対運動をしている方もいます。また晴海にも、2020年の東京オリンピック・パラリンピック後には、高層マンションが建つと聞いています。区は20～30年後のことを考えて、次々と高層マンションが建つことを許可しているのでしょうか。

●**都市整備部長** 月島地区は住宅と商店が混在し、かつ木造建物が密集していて、かねてより防災上の問題が指摘されてきました。しかし、なかなか個別の改築（不燃化・耐震化）が進みませんでした。そこで区は、まず平成7年に「月島のまちづくり（素案）」を策定し、これらの課題に対応しつつ、月島の町の雰囲気を残す、まちづくりルールを定めました。その後、急激な人口流入やオリンピック・パラリンピックの開催決定など、区を取り巻く環境が激変したのを受け、平成28年に新たに「月島地区ガイドライン」を策定しました。そこでは「災害につよいまちの形成」「多様な交流と賑わいのあるまちの形成」「うるおいのあるまちの形成」「つながりあるまちの形成」「個性あるまちの形成」の5つを基本方針としました。

ご指摘いただいた再開発事業も、この「月島地区ガイドライン」に沿って行われるものです。これにより、従来、個別改築では解決できなかった地域共通の課題、すなわち避難広場の確保ができるとともに、生活利便施設も導入されます。

区としては、これら再開発事業に対して、区民の皆様にとって、よりよいまちとなるように、しっかりと指導していきたいと考えています。

- 月島スポーツプラザを原則、徒歩での利用に限ってはどうか。現在、プラザに面する歩道に駐輪場が設置されていますが、駐輪マナーが非常に悪く、近隣の方々が迷惑しています。私も気づくと、窓口の方に整理整頓を頼んでおり、確かにその直後は直ります。しかし、しばらくすると元に戻ってしまいます。

どうしても駐輪を続けるのであれば、駐輪券を発行し、窓口で整理整頓を促していただくとか、見回りの強化をお願いします。

- **区民部長** 現在、月島スポーツプラザには駐輪場が2カ所あり合計70台ほどが駐輪できます。水泳教室など、利用者が多い時間帯には駐輪場が非常に混雑しているので、定期的に巡回し、整理整頓をしているところです。

区としても、近隣から通われる場合や混雑時には徒歩または公共交通機関での来場を促すように広報してまいります。団体利用の場合には、当該団体の事業者を通じて、協力を求めてまいります。

ただ、駐輪券の発行については、仮に発行して、駐輪券がない自転車を撤去できるかということ、撤去保管場所もないため、実現は難しいかと考えています。

- 一部の都立高校では既に実施されていますが、区立中学校でも、女子制服の選択導入、具体的にはスカートか、スラックスかを選択できるようにしてはどうかと思います。冬にはスカートだと見ても寒々しいですし、機能性・安全性からもスラックスが優れていると思います。またLGBTの女性は制服のスカートが嫌だったと聞いたことがあります。学校長の判断で制服を決定できるとのことですので、学校・保護者の理解、話し合いのもと、選択制を導入してはどうか。

- **教育委員会事務局次長** 中央区の各学校で採用されている標準服は、学校と保護者、また地域の方々の話し合いによって、その学校や地域にふさわしいものとして、長い歴史・伝統の中で導入されています。したがって、ご提案の選択制についても、これらの方々に十分に話し合っただき、導入を決めていただければと考えています。

- 中央区内では路上喫煙が全面禁止になっていますが、まだ見かけます。こちらが注意するのに躊躇する場面もありますので、もっと目立つ形で路上喫煙禁止の表示をしていただきたいと思います。回答は不要です。

— 了 —